

書き込み年表 advanced⑧、中国史 5(唐王朝中期～滅亡まで) (皇帝の年代は在位をあらわす)

歴 朝 代	620	太宗(李世民, 626～649) 玄奘、インドへ出発(629, 645帰国) 東突厥を制圧(630)	(中央アジア) 西突厥	(周辺諸国家) (モンゴル) (チベット) (朝鮮) 東突厥 吐蕃 高句麗 新羅 百済
	高宗(649～683)	最大の領土築く		
	西突厥を制圧(657)			
	新羅と結び、百済を制圧(660)			
	白村江の戦いで日本軍を破る(663)			
	新羅と結び、高句麗を征服(668)	朝鮮半島統一へ		
	都護府設置(670頃)			
	義淨、海路を使ってインドへ(671, 695帰国) (則天武后実権を握る)	武韋の禍		
	中宗(高宗の子, 683～684)	睿宗(高宗の子、中宗の弟, 684～690)		
	則天武后自ら即位、国号を周とする			
	周 則天武后(690～705)	中国王朝史上、唯一の女帝		
歴 朝 代	700	武后の死後、中宗が復位(705)	中宗(705～710)	河西節度使設置(710)
	中宗の皇后、韋后中宗を毒殺、睿宗復位(710)	睿宗(710～712)	節度使	辺境を防衛する募兵軍団の指揮官 現地から徴税する財政権を持つ
	睿宗の子、李隆基(後の玄宗)韋后的勢力を追放(712)			藩鎮 節度使の治める地方政府
	玄宗(712～756)	開元の治(治世の前半)		初め科挙官僚→異民族の軍人節度使に
	安定した統治の背後で少しずつ制度が崩壊			
	均田制のゆがみ 逃戸(逃亡する均田農民)の問題		兵の確保厳しく(府兵制により)	
	募兵制実施(722)	(府兵制廃止(749))	兵を募って雇う制度	
	周辺異民族の自立・反抗	→ 犬馬(きび)政策の破綻	10節度使の設置	
	揚玉環を妃に、楊貴妃となる(745)	外戚の楊国忠、宰相に	安禄山(ソグド系の武将) 3節度使を兼任	
	タラス河畔の戦いでアッバース朝に大敗(751)			
歴 朝 代	唐、西域より後退			
	安史の乱(755～763)	→ 安禄山、楊国忠打倒を掲げて挙兵 洛陽占拠、国号を大燕とする		
	ウイグルの援助で安史の乱鎮圧(763)	→ 安禄山、息子に暗殺される → 部下の史思明挙兵 ウイグル・吐蕃(チベット)、外地を占領		
		藩鎮(節度使)の独立	安史の乱後、内地にも節度使置かれる	
		宦官の專横始まる	鹽の専売行われる	
	兩税法施行(780)	兩税法	所有する土地の大小に従って課税	
	宰相楊炎、皇帝德宗に建議		基本錢納(貨幣で納める)、穀物・布での代納もあり	
			土地所有公認される(均田制崩壊)	
	800	黄巢の乱(875～884)	王仙芝と共に挙兵 黄巢 塩の密売人?、科挙落第生?	窮乏した民衆の反乱、流民・強盗が主力 → 貴族の没落、藩鎮勢力自立 → 一時長安占領 → 唐の統治事実上終了
	900	朱全忠、唐を滅ぼす(907, 後梁の太祖に)	朱全忠	黄巢の乱鎮圧に活躍